

第12回 きらり川口ジュニア議会

8月24日、きらり川口ジュニア議会が開催されました。次代を担う子どもたちに、議会の体験をとおして市政の仕組みを理解し、市民としての意識を高めてもらうことを目的に始まった事業です。今回は、各中学校から2人と市立高等学校から1人の全51人の議員が選出され、それぞれの視点から、市政に対しての質問や提言をしました。



議員提出議案

川口に住んで良かったといえる街づくりの決議

私たちの学校では、「あいさつ運動」が盛んに行われています。あいさつをするとうみんなが笑顔になり、元気で明るく学校生活を送ることができます。

このことが地域にも広がり、川口市全体があいさつの絶えない明るい街になればよいと考えています。

現在、川口市の人口は51万人を超えています。そして、首都東京という大きな都市に隣接して発展を続けている今も、昔ながらの鎗物や植木という伝統産業を大切にしながら新しい施策を進め、「活力あるまちづくり・人づくり」に努力していることを知りました。

子どもからお年寄り、在住の外国の方までみんなが活力にあふれ、笑顔で明るく、暮らしやすい川口市にするためには、互いを理解し合い、協力することが大切です。

例えば、少しでも川口という街を知ろうとすること、地域の活動に積極的に参加することなどによって、一人一人の小さな行動はやがて大きく広がり、活力や笑顔のあふれる明るい街をつくることができます。

私たち一人一人何ができるのかを考え、川口市民としての誇りを持って、これからも生活していきたいと強く願っています。

このジュニア議会を通して、私たちの暮らす川口について真剣に考えることができました。これからの川口の未来を創りあげていくのは、ここにいる私たちです。

「活力あるまちづくり・人づくり」に向けて、誰もが笑顔の絶えない元氣な川口市をすることを目指し、住んで良かったといえる街・川口をつくることをここに決議いたします。

平成22年8月24日

きらり川口ジュニア議会

質問・答弁

Q 市民がもっと気軽に歴史に触れられるように今後どのような工夫をしていくかについて

A 私たちのふるさと・川口の良さを多くのかたがたに知っていただくとう「我が



施するにぎわいを創出するための事業や商店街をPRする事業を支援するなど積極的に取り組んでいます。

Q 学校や塾の帰り道の安全について

A 市内の犯罪認知件数は、平成15年から昨年までの6年間連続で減少してありますが、最近、不審者が声をかけてきたりするなどの事案が増加傾向にある状況です。その犯罪防止のため、学校、町会などによる防犯パトロール活動を実施し、また、小学校、町会などでの防犯教室や街頭キャンペーンなどの啓発活動を行っています。

今後、学校や警察などと連携し、自身の防犯意識の高揚を図り、防犯活動のさらなる充実により、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進していきます。

感想

議長 県陽高等学校

湯川 玲奈 議員

きらり川口ジュニア議会で、議長として全体を俯瞰でき、貴重な体験となりました。具体的に市の課題一つ一つの解決のための仕組み、市政の様子を学ぶ事ができました。市民一人ひとりの社会意識が、川口市全体の将来をつくるっていくのだと実感できました。よりよい街づくりをするために、私たち若者が、ジュニア議会を体験する意義を強く感じました。

Q 川口市の商店街活性化の取り組みについて

A 市内にある商店街では、季節に合わせたイベント開催や、街路灯への装飾やイルミネーションなど、さまざまな活動が行われています。市ではこのような商店街が実

まち川口・再発見」事業を展開してきました。今年度から新たに近隣のかたがたにも私たちの郷土を知っていただくとうと「ようこそ川口キャンペーン」を開始しました。またバスでの「市内文化財巡り」も開催します。多くの市民が「川口に住んで良かった」「これからも住み続けたい」と実感できるような、まちづくりに努めていきます。